

PBASIC 言語 2.5 について

BASIC Stamp Editor / Development System Version 2.0 Beta – Release 2

紹介

パララックスベーシックスタンプエディター／開発システム、改訂 2.0 は PBASIC プログラミング言語とベーシックスタンプ (BASIC Stamp®) の質を高めるために作られました。一般のベーシック言語版で考慮されるいくつかのインストラクションが PBASIC の中に組み込まれたのをこの解説の最後の部分で説明してあります。質を高めた PBASIC プログラミング言語は、PBASIC 2.5 と呼ばれます。

責任の否認

この解説は、読者への啓蒙と教育のために意図されたものです。十分に正確を期したつもりですが、パララックス社 (Parallax, Inc.) 及び日本マイクロロボット教育社は、エラー、脱落、いかなるアプリケーションの内容の適合性などについての責任は持てませんのでご了承ください。また、本書の情報の使用及び誤使用結果によるいかなる損害も責任は持てません。なお、本書の情報を使って装置の使用、製造又は販売等に関してそれが特許、コピーの権利又はその他の権利などを侵害していないかどうかの判断は、読者に責任があります。

サポート

PBASIC 2.5 はまだ完成した商品ではありませんので、PBASIC 2.5 についてのご質問は、support@microbot-ed.com にメールを下さい。

改良されたPBASIC 2.5の概略

- 【 1 】 \$PBASIC directive
- 【 2 】 PIN type
- 【 3 】 New DEBUG control characters
- 【 4 】 DEBUGIN
- 【 5 】 Line continuation for comma-delimited lists
- 【 6 】 IF...THEN...ELSE *
- 【 7 】 SELECT...CASE
- 【 8 】 DO...LOOP
- 【 9 】 EXIT to terminate loops
- 【10】 ON...GOSUB
- 【11】 ON...GOTO
- 【12】 READ / WRITE enhanced
- 【13】 PUT / GET enhanced *
- 【14】 Program labels require colon
- 【15】 Conditional Compilation Directives *
- 【16】 Enhanced Interface / Color Syntax Highlighting *

【 1 】 \$PBASIC Directive

(Directive (ディレクティブ) : 使用する言語の **Version** を指定します)

新しい言語の特性使用を可能にするためと今までのプログラムをそのまま機械語に編集 (**Compile**) するために、\$ **PBASIC** ディレクティブが作られました。**PBASIC 2.0** までのプログラムをコンパイルする時にはこのディレクティブは必要ありません。新しい特性を有効にするためには、**2.5** のディレクティブが必要となります。

'{\$PBASIC 2.0}' オプション — **2.0** の特性を使用。
'{\$PBASIC 2.5}' 改訂 (**version**) **2.5** の特性を有効にします。

利便性を図るために、新しい **2** つのボタンが希望する \$ **PBASIC** ディレクティブを挿入するためにツールバーに加えられました。

【 2 】 PIN Type

(Type : I/O ピンの指定)

PIN タイプの定義は、同じ I/O ピンが **input** と **output** に使われるようなプログラムを簡単にさせます。定数 (例 : 0) なのか、**input** の変数ビット (例 : **In 0**) なのか、それとも **output** の変数ビット (例 : **Out 0**) なのか、与えられたコマンドに必要なピンの値をコンパイラーに決めさせる事によってプログラムを簡単にさせます。

構文と使用例 :

```
SDA    PIN    8
SCL    PIN    9
```

I2C_Start:

```

INPUT SDA          ' make pins inputs
INPUT SCL
LOW SDA

```

Clock_Hold:

```

DO : LOOP WHILE (SCL = 0) ' monitor input bit
RETURN

```

【3】DEBUG コントロールキャラクター

注意：これらの新しいキャラクターは **BASIC** スタンプの開発システム内だけで正しく働きます。外部の、例えば、**Hyper Terminal** 等では働かないかもしれませんのご注意ください。カッコの中の数字は記号列定数の数値です。

- **CRSRXY** (2) カーソルを **X**、**Y** (**X** バイトと **Y** バイト) の位置に動かす (この後にコマンドが続く)
- **CRSRLF** (3) カーソルの位置を左に動かす
- **CRSRRT** (4) カーソルの位置を右に動かす
- **CRSRUP** (5) カーソルの位置を 1 行上に動かす
- **CRSRDN** (6) カーソルの位置を 1 行下に動かす
- **LF** (10) ラインフィードキャラクター (**Linefeed character**)
- **CLREOL** (11) 現在の最後のラインに対する全てのキャラクターをクリアする
- **CLRDN** (12) 現在の位置からウィンドウの終わりまで全てのキャラクターをクリアする
- **CRSRX** (14) カーソルを **X** 列動かす (**X** バイト後にコマンドが続く)
- **CRSRY** (15) カーソルを **Y** 行動かす (**Y** バイト後にコマンドが続く)

例：

```

DEBUG CRSRXY, 1, 1
DEBUG "BASIC Stamp Editor Version 2.0", CR

```

この例はカーソルを **2** 行目の **2** 列目に動かします。そして文字列をプリントします。**CRSRXY** に続く値は、起点がゼロです。(0、0 は **1** 列目の **1** 行目です。)

【4】DEBUGIN

DEBUG ターミナルからユーザーが入力し易いように、**DEBUGIN** キーワードが加えられました。これは、**SERIN** と全く同じ働きをしますが、**PIN 16** に固定されているため、ユーザーがピンを指定する必要はありません。**baud rate** (通信速度) は **DEBUG** ボー標準の **9600** ボーを使うか、又は、カッコでモディファイアー (**modifiers**) かインプットの変数を囲って使います。

DEBUGIN は **DEBUG**、**SERIN**、**SEROUT** などと同じ形式のモディファイアーを使います。

例 :

Get_Hours:

DEBUG Home, "Enter hours: ", CLREOL

DEBUGIN DEC hrs

IF (hrs > 23) THEN Get_Hours

注意 : DEBUGIN を使っている時は、DEBUG ターミナルウィンドウの “Echo Off” を選ぶと良いでしょう。

【5】連続したリスト

どんなコードのラインでも、アーギュメントやリストなどをカンマ (,) で区別すれば 2 行にわたってコードを書いても構いません。

例 :

DEBUG "Hello, World", CR,

"PBASIC 2.5 is ready for action!"

BRANCH idx, [Target1, Target2, Target3,

Target4, Target5, Target5]

SELECT idx

CASE 1, 2, 6,

10, 11, 12

HIGH 0

CASE 3, 4, 5,

13, 14, 15

HIGH 1

ENDSELECT

【6】IF...THEN...ELSE

PBASIC 2.5 は標準の IF...THEN...ELSE を含みます。一般のシンタックスは次のような 2 つの形式のどちらかを取ります。(大カッコ { } の中の項目はオプションです。)

IF condition THEN

statement(s)

{ ELSEIF condition THEN

statement(s) }

{ ELSE

statement(s) }

ENDIF

上の例は、また次のようにも書けます。(ENDIF がないことに注意して下さい。)

IF condition THEN statement(s) { ELSEIF statement(s) } { ELSE statement(s) }

特記：

- 複数のステートメントは、各ステートメントをコロンの (:) で区別する事によって、1 行のシンタックスの THEN、ELSEIF、ELSE の中に含むことができます。
- ENDIF は 1 行のシンタックスでは使われません。
- IF...THEN...ELSE 構文は最高 16 までのネスト (nest) が出来ます。

例：

```
IF (score > 90) THEN
DEBUG "Your grade is an A!", CR
ELSE
DEBUG "Perhaps more study is in order...", CR
ENDIF
```

```
IF (idx = 1) THEN HIGH 10 : LOW 11 ELSE LOW 10 : HIGH 11
```

【7】SELECT...CASE

複数の IF...THEN...ELSE 構文をすっきりとした SELECT...CASE に取り替えることが出来ます。SELECT...CASE のための PBASIC シンタックスは、(| このマークは共通項目の意味です)：

```
SELECT expression
CASE condition | ELSE
statement(s)
```

```
ENDSELECT
```

特記：

- expression は変数、定数、別の expression を使うことが出来ます。
- condition は次のような形式にすることが出来ます；

{ condition-op } #

ここに、condition-op はオプションの条件オペレーター：=、<>、<、>、>=、<= など。

は変数、定数又は expression (式)

又は、

```
#TO#
```

これは、初めの番号から次の番号の範囲を表示しています。

この形式では条件オペレーターは使えません。

- 同じ **CASE** 内の複数のコンディションはカンマ (,) によって区別することができます。
- **CASE** が **True** の時、デフォルトの機能は **CASE** のステートメントを実行します。それからプログラムは **ENDSELECT** のすぐ後にあるステートメントにジャンプしてそれを実行します。

例 :

```
*****
SELECT irCmd
  CASE 0 TO 3
    HIGH irCmd

  CASE Alloff, Mute
    OutA = %0000

  CASE ELSE
    DEBUG "Bad Command", CR
ENDSELECT
*****
```

【8】DO...LOOP

PBASIC 2.5 は、次のような一般的な形を取る標準化したルーピング構築を含みます :

```
DO { WHILE | UNTIL condition }
  statement(s)
LOOP { UNTIL | WHILE condition }
```

条件のステートメントは特定の繰り返し数だけループを実行するように設定することができます。条件が **True** になるまでか、又はその間、或はもし条件が適用されなければ無期限にループを繰り返します。最高 16 までの **DO...LOOP** をネステッド (**Nested**) する事が出来ます。

例 :

```
*****
DO
  TOGGLE AlarmPin
  PAUSE 100
LOOP
*****
DO WHILE (Status = Okay)
  StatusLED = IsOn
  PAUSE 100
LOOP
*****
```

上の例では、条件がループのコードが実行される前にテストされます。次の例では、ループコードが少なくとも 1 回は実行されます。なぜなら、条件のテストはコードの最後になされるからです。

DO

AlarmLED = IsOn

PAUSE 1000

LOOP UNTIL (ovenTemp < ResetThreshold)

【9】EXIT

EXIT は FOR...NEXT 又は、DO...LOOP を即座に終了させます。最高 16 までの EXIT をループ構造の中に設定することが出来ます。

例：

FOR samples = 1 TO 10

GOSUB Read_Temp

GOSUB Display_Temp

IF (temp > 100) THEN EXIT

PAUSE 1000

NEXT

上の例でループは、温度 (temp) が 100 を越えなければ、10 回繰り返します。temp が 100 を越えると FOR...NEXT のループは即座に終わります。

【10】ON...GOSUB

ON...GOSUB は他の BASIC と同一になるように加えられました。これは、PBASIC の BRANCH コマンドに似た命令で、それに続くラインのアドレスが少し違うだけです。そして、GOSUB がオフセットの値を元にして実行されます。もし、オフセット値がターゲットアドレスより大きい場合には、コードは次のラインを実行するために移ります。

一般的なシンタックスは：

ON offset GOSUB Target0 { Target1, Target2, ...TargetN }

ここに；

- オフセット (offset) は、0 から N のブランチに対するリストで、アドレスの指標 (index) を特定する 0 から 255 までの変数/定数/式 などで。
- ON...GOSUB はオフセット 255 を越えるどんなリストも無視します。

例 :

```
*****
DO
ON task GOSUB Update_Motors, Read_IR, Read_Light, Read_Temp
    task = task + 1 // NumTasks
LOOP
*****
```

【11】 ON...GOTO

ON...GOTO が他の BASIC と同一になるように加えられました。そして動作は PBASIC の BRANCH コマンドと同様です。

```
ON offset GOTO Target0 {, Target1, Target2, ...TargetN }
```

ここに ;

- オフセット (**offset**) は、0 から N のブランチに対するリストで、アドレスの指標 (**index**) を特定する 0 から 255 までの変数/定数/式 などで。
- ON...GOSUB はオフセット 255 を越えるどんなリストも無視します。

例 :

```
ON alarmLevel GOTO Code1, Code2, Code3
```

上の例は次の BRANCH コマンドを同じものです :

```
BRANCH alarmLevel, [Code1, Code2, Code3]
```

【12】 READ and WRITE インストラクションの増強

READ と WRITE のバイト (**Bytes**) 又は、ワード (**Words**) でそれぞれ能率アップがなされました。そして、コードの 1 行の中で READ 又は WRITE の複数の変数が認められるようになりました。シンタックスは次のようになります (大カッコ { } はオプションです。);

```
READ location, {Word} variable {, {Word} variable, {Word} variable ... }
WRITE location, {Word} variable {, {Word} variable, {Word} variable ... }
```

例 :

```
READ 0, hours, minutes, seconds
```

```
WRITE 3, month, day, Word year
```

オプションのワード (**Word**) パラメーターが使われる時、値はローバイト (**low byte**) を先に読み取る又は、書き込んでそれからハイバイト (**high byte**) が続きます。

【13】 PUT and GET インストラクションの増強

PUT と GET のバイト (Bytes) 又は、ワード (Words) でそれぞれ能率アップがなされました。そして、コードの 1 行の中で PUT 又は GET の複数の変数が認められるようになりました。シンタックスは次のようになります (大カッコ { } はオプションです。);

```
PUT location, {Word} variable {, {Word} variable, {Word} variable ... }
GET location, {Word} variable {, {Word} variable, {Word} variable ... }
```

例:

```
PUT 0, hours, minutes, seconds
```

```
GET 3, month, day, Word year
```

オプションのワード (Word) パラメーターが使われる時、値はローバイト (low byte) を先に読み取る又は、書き込んでそれからハイバイト (high byte) が続きます。

【14】 プログラムの中のラベル名にはコロン (:) が必要

PBASIC 2.5 は、GOTO や BRANCH などのためのラベル名にコロン (:) を付けなければいけません。ラベル名にコロンが付いていないと、コンパイルタイムエラーが発生します。

例:

```
Get_Hours:                                ' good label (正しいラベル名)
  DEBUG Home, "Enter hours: ", CLREOL
  DEBUGIN DEC hrs
  IF (hrs > 23) THEN Get_Hours
```

```
Get_Mins                                  ' illegal label (コロンがないのでエラーになります)
  DEBUG Home, "Enter minutes: ", CLREOL
  DEBUGIN DEC mins
  IF (mins > 59) THEN Get_Mins
```

【15】 条件付編集ディレクティブ

システムに接続した BASIC スタンプを走らせるプログラムの制作を容易にするために、いくつかの条件付編集ディレクティブが準備されました。

```
#DEFINE symbol = value
```

例 :

```
#DEFINE NOSPRAM = ($STAMP = BS2)
```

```
#IF (condition) #THEN
```

```
    statement(s)
```

```
    { #ELSE
```

```
        statement(s) }
```

```
#ENDIF
```

```
*****
```

例 :

```
#IF (NOSPRAM) #THEN
```

```
    DEBUG "No SPRAM in this Stamp."
```

```
    END
```

```
#ENDIF
```

```
#SELECT expression
```

```
    #CASE condition
```

```
        statement(s)
```

```
#ENDSELECT
```

```
*****
```

例 :

```
#SELECT $STAMP
```

```
    #CASE BS2, BS2e, BS2pe
```

```
        MidiBaud  CON  $8000 + 12
```

```
    #CASE BS2sx, BS2p
```

```
        MidiBaud  CON  $8000 + 60
```

```
#ENDSELECT
```

```
#ERROR  message
```

```
*****
```

この上の例のディレクティブはエディタ (**editor**) で表示されるエラーメッセージをプログラマーが作ることが出来ます。プログラムは**#ERROR** のラインをハイライトして止まります。

例 :

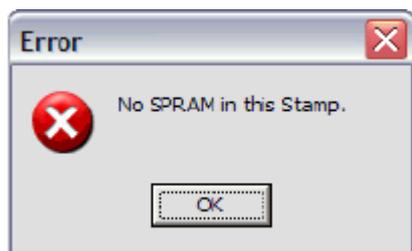
```
#IF ($STAMP = BS2) #THEN
```

```
    #ERROR "No SPRAM in this Stamp."
```

```
#ENDIF
```

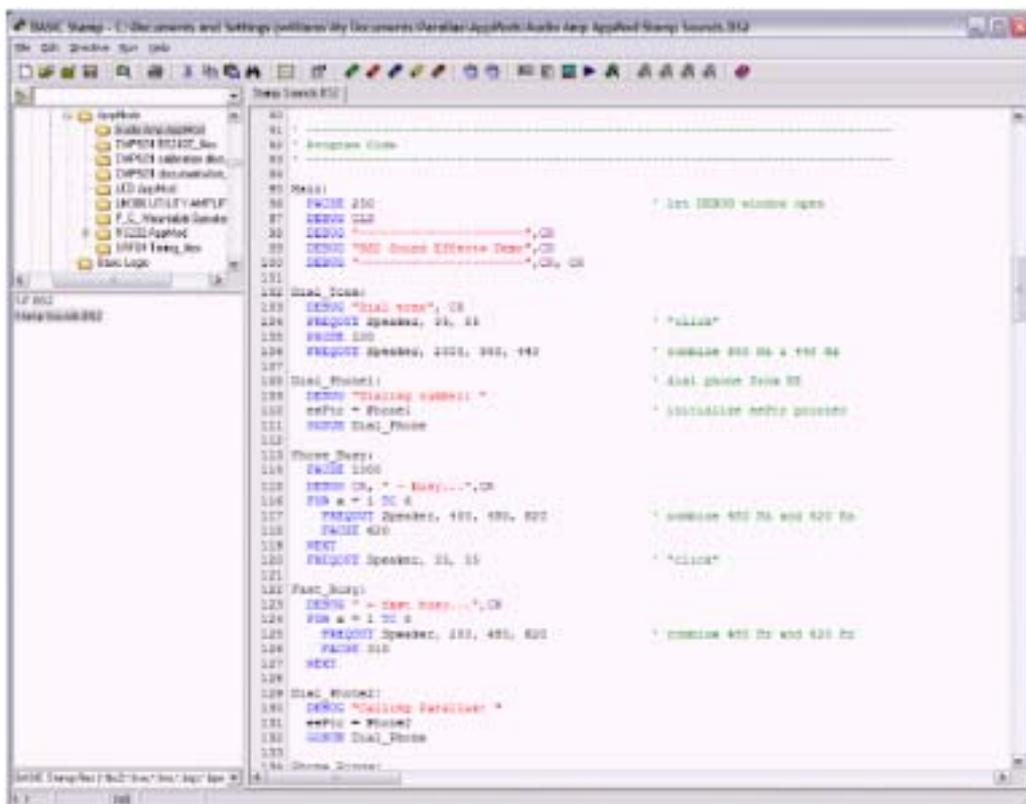
```
*****
```

上の例では、もし BS2 の BASIC スタンプが接続されていれば次のように表示されます：



【16】 インターフェイスの向上及び色付きシンタックスハイライト

BASIC スタンプのエディタ／開発システムは、ファイルの検索とファイルを開く事が簡単に出来るようにエクスプローラー形式のインターフェイスになりました。複数ファイルをファイルペイン（ファイルのリストがある所）から選択出来ます。そして、エディタペイン（ファイルを書く所）にドラッグアンドドロップが出来ます。この動作は選択したひとつ又は複数のファイルを開きます。



このリリースは色付きシンタックスハイライトを含んでいます。デフォルトハイライトで殆どのプログラマーは間に合うでしょうが、変更することも出来ます。ハイライトの一覧を変更するには、**Edit\Preferences...**から **Preferences** ダイアログを開いて、“**Editor Appearance**” タブを選び、**PBASIC scheme** を選びます。“**Copy Scheme**” ボタンをクリックして、コピーを **approve**（承認）します。そしてそれから、希望するようにシンタックスハイライトを変更します。変更の状態をすぐ見たい場合には、“**Show Preview Example**” のチェックボックスを選んでください。